

2013 年度 障害者雇用分科会における年度目標の中間評価について（案）

2013 年度の目標として障害者雇用分科会において設定した年度目標について、当該分科会が実施した中間的な評価の結果は、概ね以下のとおりである。

※ 中間評価は 2013 年 12 月時点で把握できる直近の各種指標（概ね 2013 年 4 月～10 月頃の数値）に基づいて行った。

（障害者雇用分科会において設定された年度目標の動向）

○ ハローワークにおける障害者の就職件数について

〔2013 年度目標〕 前年度（68,321 件）以上

〔4 月～10 月実績〕 46,970 件（前年同期実績 40,058 件）

障害者の就職件数は、企業における障害者雇用への理解が進んでいること、就職を希望している障害者が増加していること、また、2013 年 4 月から法定雇用率が引き上げられた影響もあり前年同期を上回る実績となっており、2013 年度の目標水準を上回ることが期待できる。引き続き、ハローワークが中心となり福祉、教育、医療等の関係機関と連携し、求職者の障害特性に応じたきめ細かな職業相談・職業紹介を実施する必要がある。

○ 障害者の雇用率達成企業割合について

障害者の雇用率達成企業割合については、2014 年 6.1 報告の結果が出た時点で改めて評価を行う。

なお、2012 年度の目標においては 43%以上としていたところ、2013 年 6.1 報告で 42.7%（前年比 4.1 ポイント減）となっており、目標とほぼ同水準の実績ではあるが、僅かに届かなかった。これは、2013 年 4 月に法定雇用率が引き上げとなった（民間企業については 1.8%→2.0%）ことが理由として考えられ、企業からの求人の充足を的確に行うとともに、引き続き事業所に対する厳正な雇用率達成指導を実施する必要がある。

○ 精神障害者雇用トータルサポーターの相談支援を終了した者のうち、就職に向けた次の段階へ移行した者の割合について

〔2013 年度目標〕 60%以上

〔4 月～9 月実績〕 69.5%（前年同期実績 54.5%）

精神障害者雇用トータルサポーターの相談支援を修了した者のうち、就職に向けた次の段階へ移行した者の割合は、目標及びその進捗を意識した業務実施を改めて指示するとともに経験交流会を開催し、精神障害者雇用トータルサポーター間の支援ノウハウの共有を図るなどの取組みの結果、現段階で大幅に目標を上回っており、目標の水準を上回ることが期待できる。

今後も目標の達成に向けて、引き続き、精神障害者雇用トータルサポーターの質の向上を図りつつ、精神障害者の求職者に対するカウンセリングや就労準備プログラム、事業主への意識啓発等の総合的な支援を着実に実施していく必要がある。